

# G.Itoya (銀座・伊東屋)

G.Itoya

No. 12-050-2017作成

新築  
物販/事務所/飲食

発注者	株式会社 伊東屋	カテゴリー				
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	大成建設株式会社	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## “FACADE”から“GALLERIA(みち)”へ



積層された「ガレリア(みち)」



旧伊東屋から「みち」としてまちに繋がる新伊東屋へ 大型可動壁

### “FACADE”から“GALLERIA(みち)”へ

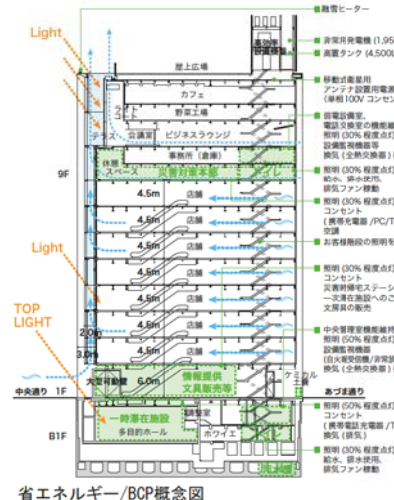
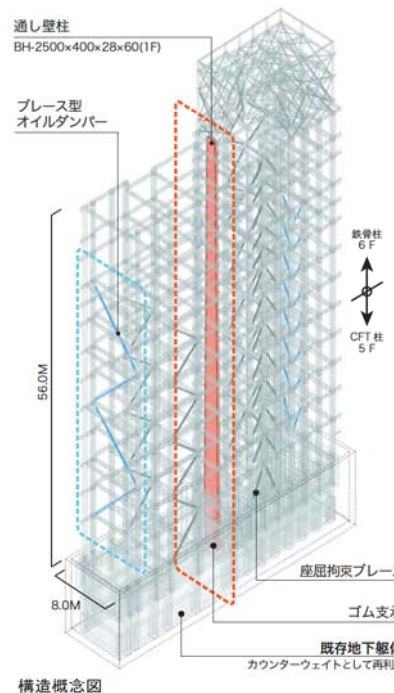
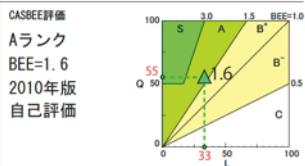
銀座の中央通りに面するステンレスビルとして親しまれてきた銀座伊東屋の建て替えである。旧銀座伊東屋ビルのステンレスのファサードを、敷地の中に折り込んで、ビルの内側を通じて背面の通りに貫通させることで、ビルの内部に伊東屋の世界を建ちあげ、まちに開かれたインターフェイスとして再構築している。フルオープンが可能な中央通り側に設けられた幅約5m×高さ約5mの大型の電動の可動壁により通り抜けが可能なまちに開かれた存在となることを意図した。

鮮やかに高密度なビルが林立する銀座の街に、「ガレリア(みち)」が入り込み、人々が特別な時間を過ごせる場所となることを望んでいる。

通りから3m床を後退させることで出来た、銀座のまちとのInterface

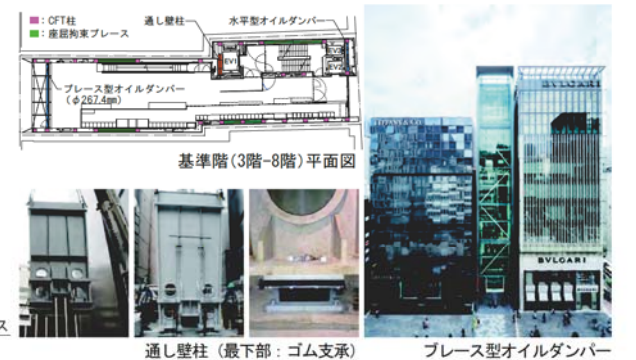
建物データ	所在地	東京都中央区
	竣工年	2015年
	敷地面積	378㎡
	延床面積	4,195㎡
	構造	地上：S造(一部柱CFT)、地下：RC造
	階数	地下2階、地上13階、塔屋2階

省エネルギー性能	ERR (CASBEE準拠)	37%
	LCCO2削減	32%



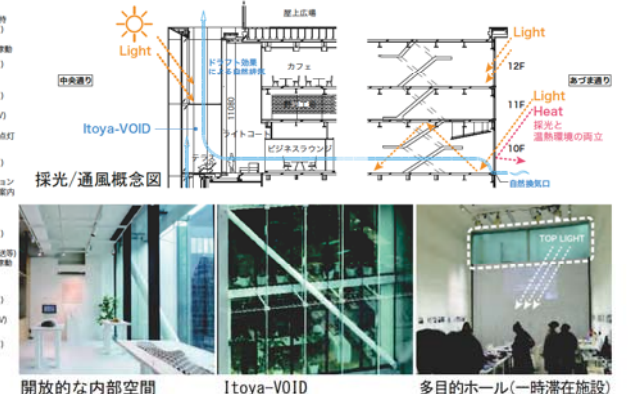
### 付加的に行った時刻歴応答解析

東日本大震災を契機に問われる構造的なりタンダシーに対し、法令上求められない時刻歴応答解析を付加的に行い、建物高さ56m、建物間口8m、塔状比7のスレンダーな形状の建物に更なる安全を確保している。短辺方向の架構形式は付加制振構造とし、五重塔をモチーフとした「通し壁柱」を採用。建物中央部に地階から最上階まで全層を貫通する剛強な壁柱を配し、その最下部には積層ゴムを設置し、変形制御を図るとともに、特定層への変形集中を防いだ。中央通り側のダブルスクリーンによる透明感の高いファサードに溶け込む細径のブレース型オイルダンパー(外形φ267.4mm)を採用することで、ねじれ変形を効果的に抑制し、最大変位の低減し、外観デザインとの融合を図った。



### 銀座のまちに快適と安心を提供

「銀座で何かがあったら伊東屋に逃げろ」と言われるような、銀座のまちに安心を提供できるビル」という建築主の想いを具現化するため、設備機器の高効率化は元より、災害時は電源や水、自然光や空気を供給し、地下ホールを来客者の一時滞在施設としている。開口の狭い敷地条件を活かすため天井レスとし、接道部は開口を最大化することで自然光に満たされた快適な空間としている。併せて中央通り側の開口部は約2.0mの中空層をもつダブルスクリーン『Itoya-VOID』としている。中間期にはあづま通り側から外気を取り入れ、ドラフト効果を利用した自然換気システムとした。



### 主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (付加的に行った時刻歴応答解析、CFT柱、天井レス(天井脱落への配慮)、BCP対応)
- Q2. 3. 対応性・更新性 (階高:6.0m/4.5m、天井レス)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (狭小な敷地を活かした建物コンセプト「ガレリア」)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (大型可動壁)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (高効率設備機器の採用、LED照明)
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮 (ダブルスクリーンのドラフト効果を利用した自然換気 (Itoya-VOID)、TOP LIGHT、既存躯体利用)